

表 6.8-26 確認された保護上重要な種一覧

No.	分類群	科名	種名	保護上重要な種の選定基準						
				文化財 保護法	種の 保存法	県保護 条例	環境省 RL	海洋生物 RL	県 RDB	水産庁 DB
1	哺乳類	トガリネズミ	ニホンジネズミ						情不	
2		ヒナコウモリ	コテングコウモリ						II類	
3	鳥類	ハト	カラスバト	天			準絶		準絶	
4		ミサゴ	ミサゴ				準絶		準絶	
5		タカ	ハイタカ				準絶		準絶	
6			サシバ				II類		II類	
7		キツツキ	タネアオゲラ						準絶	
8		ハヤブサ	ハヤブサ		国内		II類		II類	
9	爬虫類	ヤモリ	ヤクヤモリ				II類		II類	
10	昆虫類	マルゴキブリ	ヒメマルゴキブリ						情不	
11		コノハムシ	コブナナフシ						準絶	
12		ゲンゴロウ	コガタノゲンゴロウ				II類			
13		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ				情不			
14	陸産貝類	ヤマタニシ	ヤマタニシ						消II類	
15			ミジンヤマタニシ						準危	
16		ヤマクルマガイ	ヒメヤマクルマガイ						準絶	
17		ムシオイガイ	サツمامシオイ				準絶		準絶	
18			タネガシマムシオイ				準絶		準絶	
19		アズキガイ	アズキガイ						準危	
20			フナトアズキガイ						準絶	
21		ゴマガイ	タネガシマゴマガイ						準絶	
22			ヤクシマゴマガイ				準絶		準絶	
23		キセルガイモドキ	チャイロキセルガイモドキ				II類		II類	
24		キセルガイ	ピントノミギセル						準絶	
25			ハラプトノミギセル				準絶		準絶	
26			タネガシマギセル				準絶		準絶	
27			ハラプトギセル						準絶	
28			ヤコビギセル						準絶	
29			トカラコギセル				I類		準絶	
30		タワラガイ	ヤクシマタワラガイ						準絶	
31		ナタネガイ	ミジンナタネガイ						準絶	
32		シタラ	カサキビ						準絶	
33			ヒメカサキビ				準絶		準絶	
34			ヒメベッコウ						準絶	
35			ヤクシマヒメベッコウ						準絶	
36			コシタカシタラガイ						準絶	
37			ウメムラシタラガイ				準絶		準絶	
38			オオクラヒメベッコウ						準絶	
39			タネガシマヒメベッコウ						準絶	
40			コシダカヒメベッコウ				準絶		準絶	
41			ヤクシマシタラガイ						準絶	
42		ベッコウマイマイ	ソコスジカサキビ				情不		準絶	
43			ヤクシマベッコウ				情不		準絶	
44		カサマイマイ	タカカサマイマイ				準絶		準絶	
45		ナンバンマイマイ	クチジロビロウドマイマイ				II類		II類	
46			ヘソカドケマイマイ				準絶		準絶	
47			ツバキカドマイマイ				II類		準絶	
48			ヤクシママイマイ				II類		II類	
49			チャイロマイマイ						準絶	
50	オカヤドカリ類	オカヤドカリ	オカヤドカリ類	天						
51	魚類	ウナギ	ニホンウナギ				IB類		I類	
52			オオウナギ							減少
53		ハゼ	アカボウズハゼ				IA類		準絶	
54			ルリボウズハゼ				II類		II類	
55	甲殻類	イワガニ	モクスガニ							減傾
56			ケフサヒライソモドキ						準絶	
57			タイワンヒライソモドキ					準絶		
58			バンケイガニ					準絶		
59		テナガエビ	コツノテナガエビ						準絶	
60			ミナミテナガエビ							減少
61			ツブテナガエビ				準絶		準絶	
62		ヌマエビ	ヤマトヌマエビ						準絶	
63			サキシマヌマエビ			指定	準絶		II類	
64	貝類	アマオブネガイ	イシマキガイ							減少
65			フネアマガイ							減傾
66	水生昆虫類	ゲンゴロウ	キボシケシゲンゴロウ				情不			
合計	10分類群	33科	66種	2種	1種	1種	31種	2種	55種	5種

注) 1. 選定基準及びカテゴリーは表 6.8-25 参照。

注) 2. オキナワキノボリトカゲ(爬虫類)は保護上重要な種の選定基準に該当するものの、「指定外来動植物による鹿児島県の生態系に係る被害の防止に関する条例」(平成31年鹿児島県条例第11号)において、屋久島の個体群は県内由来外来種とされていることから、保護上重要な種として扱っていない。

## 1. ニホンジネズミ

北海道、本州、四国、九州とその周辺離島に分布しており、主に竹林、草地、森林内などに生息する。鹿児島県では県本土やトカラ列島中之島以北の島嶼に分布しているが、島嶼（種子島、屋久島、口永良部島、口之島、中之島）では生息数が少なく、近年の調査報告例がないため、県 RDB において本地域の個体群を情報不足に選定している。

調査では、飛行場周辺で死体が 1 個体確認された。

## 2. コテングコウモリ

北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布しており、主に高木を有する照葉樹林内を生活場として利用する。ねぐらとして、樹洞、廃坑、隧道の天井隙間、樹皮の隙間、枯葉内を利用する。

コウモリ類調査時に、飛行場周辺 1 箇所音声を確認された。

## 3. カラスバト

鹿児島県内では、長島、甕島列島、宇治群島、黒島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島、奄美諸島、沖秋目島など、ほとんどの島嶼に留鳥として生息している。生息環境は、おもに島嶼のシイ・タブなどからなる常緑広葉樹林や灌木林である。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林において生息が確認され、土砂採取区域及びその周辺における確認例数が特に多くなっていた。

調査範囲において、巣は確認されていない。

飛行場周辺では地上付近で確認され、土砂採取区域及びその周辺では樹上付近で多く確認された。

## 4. ミサゴ

鹿児島県内では、島嶼を含む全域の海岸や河口周辺に生息している。内陸部でも記録があり、冬季は越冬個体が増える。鹿児島県内の海岸各地、甕島列島、宇治群島、硫黄島、口之島、中之島、平島等で営巣の確認がある。生息環境は、中、小型魚類の多い開けた水域と、営巣するための崖や高木があるような、海岸、河口、湖沼などである。

調査では、冬季に飛行場周辺の海岸線上空を飛翔する個体が 1 例確認された。

## 5. ハイタカ

鹿児島県内では、薩摩半島、大隅半島、甕島列島、草垣群島、屋久島、種子島、口之島、中之島、平島、悪石島、小宝島、宝島、与論島で確認されている。鹿児島県内で繁殖は確認されていない。生息環境は、河川及び里山から森林まで広く分布しているが、平地では少ない。

調査では、冬季に飛行場周辺の樹林上空を飛翔する個体が 1 例確認された。

## 6. サシバ

鹿児島県内では、県本土全域に夏鳥として渡来し、繁殖する。また、種子島以南で越冬し、南西諸島で多数みかける。生息環境は低山～山地の森林、里山や農耕地で、主に里山で繁殖し、周辺の水田で採餌する。

調査では、秋季のルートセンサス時に飛行場周辺の樹林及び耕作地上空を飛翔する個体が1例確認された。

## 7. タネアオゲラ

アオゲラは日本固有種であり、タネアオゲラは屋久島と種子島にのみ分布する亜種である。本亜種は平地から山地の広葉樹林帯に生息する。太い木のある広葉樹林等に生息し、スギやヒノキの針葉樹林帯には生息しない。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で複数回確認された。

## 8. ハヤブサ

鹿児島県内全域にほぼ一年中生息するが、冬季に観察例が多い。繁殖期には主に崖のある海岸で見られ、冬季には崖のある海岸や海沿い、内陸の広い農耕地などで見られる。

調査では、秋季に飛行場周辺の樹林上空を飛翔する個体が1例確認された。

## 9. ヤクヤモリ

大隅諸島、九州南部及び北西部に分布しており、主に岩場、森林、ミカン畑、ヤシの枯れた葉の隙間、ガジュマルの幹の隙間などに生息する。

調査では、飛行場周辺の樹林等、土砂採取区域周辺で複数個体が確認された。

## 10. ヒメマルゴキブリ

鹿児島県内では、大隅半島佐多岬、下甕島、中之島、宝島、奄美大島、徳之島、沖永良部に記録があるが、いずれも古い記録で最近の記録はない。成虫、幼虫とも腐木又はそれに生じたキクラゲなどの菌類や樹液に集まる。

調査では、飛行場周辺樹林内で確認された。

## 11. コブナナフシ

鹿児島県内では、佐多岬、屋久島、口永良部島、悪石島、奄美大島、与路島、徳之島で記録がある。林内や林縁の低木、防風林沿いの草むらなど地面の低いところに生息している。

調査では、飛行場周辺樹林の枯れ枝において複数個体が確認された。

## 12. コガタノゲンゴロウ

本州ではほぼ絶滅状態のようであるが、九州では比較的個体数が多く、鹿児島県では最も普通に見られる大型のゲンゴロウ類である。平地から低山地の水生植物の生える池沼、放棄水田などに生息する。

調査では、飛行場周辺の樹林において1個体が確認された。

## 13. ヤマトアシナガバチ

本州、四国、九州、琉球に分布する。平地、低山地に生息し、草本の葉裏や樹木の細枝、人家の軒下、壁などに営巣する。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の道路沿いにおいて数個体が確認された。

## 14. ヤマタニシ

本州、四国、九州、済州島、甌島列島、種子島、屋久島、草垣群島、口永良部島、口之島に分布する。本種は照葉樹林の林床の落葉層に生息している。分布は広範囲だが、離島個体群は個体数が少ない。

調査では、飛行場周辺樹林で多数の個体が確認された。

## 15. ミジンヤマタニシ

北海道、本州、四国、九州、宇治群島向島、大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄本島、久米島に分布する。本種は、照葉樹林の林床の落葉層に生息している。比較的湿った林内を好むため、森林伐採による乾燥化で生息域が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の広域で分布が確認された。

## 16. ヒメヤマクルマガイ

大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で多数確認された。

## 17. サツمامシオイ

薩摩地方、大隅地方に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林で4個体が確認された。

## 18. タネガシمامシオイ

大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、土砂採取区域及びその周辺樹林の、朽木下や落葉中で確認された。

## 19. アズキガイ

本州、四国、九州、対馬、甕島列島、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は照葉樹林の林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森林に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で多数確認された。

## 20. フナトウアズキガイ

大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林の広い範囲で多数の個体が確認された。

## 21. タネガシマゴマガイ

大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。落葉層が発達した森に多いため、森林伐採によって生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の朽木下や落葉中で多くの個体が確認された。

## 22. ヤクシマゴマガイ

屋久島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林全域の朽木下や落葉中で多くの個体が確認された。

## 23. チャイロキセルガイモドキ

佐多岬、大隅諸島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の樹幹に付着している。生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。近年、人為的な採集によって減少しており個体数は少ない。

調査では、飛行場周辺及び土砂採取区域周辺樹林の樹上で主に確認された。

## 24. ピントノミギセル

徳島県、大分県、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は朽木を好み、照葉樹林などの林内の倒木下や内部に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺及び土砂採取区域樹林の落葉中で確認された。

## 25. ハラブトノミギセル

大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林広い範囲の朽木下や落葉中で多く確認された。

## 26. タネガシマギセル

大隅諸島に分布する。本種は殻高 17.5mm、殻径 4.0mm 程度の小型の貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林等の朽木下、落葉中で確認された。

## 27. ハラブトギセル

大隅諸島に分布し、落葉層の中に生息している。林縁部や二次林にも多く、草むらの枯れた草の中にも生息している。森林の減少に伴って、生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林全域の樹幹等で多数の個体が確認された。

## 28. ヤコビギセル

屋久島と種子島に分布する。本種は殻高 15mm、殻径 3.9mm 程度の小型の貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、土砂採取区域周辺の朽木下で確認された。

## 29. トカラコギセル

本州、四国、宮崎県、屋久島、三島村、奄美大島、沖永良部島に分布する。本種は樹上性で照葉樹林の樹幹に付着している。本種の生息には、ある程度湿度の保たれた森林が必要である。人目に付きやすく、人為的な採集によって数が減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林において確認された。

## 30. ヤクシマダワラガイ

鹿児島県の大隅諸島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。

調査では、飛行場周辺樹林で 1 個体が確認された。

## 31. ミジンナタネガイ

本州、九州に分布し、山麓のやや湿った落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林において確認された。

### 32. カサキビ

本州、四国、九州に分布する。本種は殻高 3.5mm、殻径 2.8mm 程度の微小な貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林 1 箇所での朽木下で 1 個体が確認された。

### 33. ヒメカサキビ

本州、三宅島、八丈島、四国、九州、屋久島、黒島、口之島、中之島、悪石島、奄美大島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の朽木や落葉中で確認された。

### 34. ヒメベッコウ

本州、四国、九州、五島（福江島）、屋久島、伊豆諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林内の林床の落葉層に生息している。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で確認された。

### 35. ヤクシマヒメベッコウ

本州、四国、九州、屋久島に分布する。本種は照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林全域の倒木下や落葉中で多くの個体が確認された。

### 36. コシダカシタラガイ

本州、四国、九州、伊豆諸島、老岐、屋久島、宝島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。分布は広範囲だが、生息地が限られ、生息個体数は非常に少ない。

調査では飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や朽木下等で確認された。

### 37. ウメムラシタラガイ

本州、四国、九州、宇治群島向島、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。比較的良好な林にしか生息しないため、森林の環境指標生物として重要である。

調査では、飛行場周辺の樹林 1 箇所で 1 個体が確認された。

### 38. オオクラヒメベッコウ

本州、四国、対馬、九州南部、大隅諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉下で確認された。

#### 39. タネガシマヒメベッコウ

九州、大隅諸島、奄美諸島、沖縄に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の倒木下や落葉中で確認された。

#### 40. コシダカヒメベッコウ

屋久島、種子島に分布する。本種は殻高 3.0mm、殻径 3.5mm 程度の微小な貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、土砂採取区域周辺樹林の落葉中や朽木下で確認された。

#### 41. ヤクシマシタラガイ

甌島、佐多岬、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域周辺樹林の樹上で確認された。

#### 42. ソコスジカサキビ

薩摩地方、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林で 2 個体が確認された。

#### 43. ヤクジマベッコウ

屋久島、口永良部島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。

調査では、飛行場周辺及び土砂採取区域周辺樹林の落葉中や朽木下で確認された。

#### 44. タカカサマイマイ

薩摩半島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。

調査では、飛行場周辺及び土砂採取区域全域の樹幹や朽木下等で多くの個体が確認された。

#### 45. クチジロビロウドマイマイ

屋久島の固有種である。本種は落ち葉の下や倒木下など、かなり湿度の高い環境に生息しているが、個体数は少ない。湿度の保たれた森林と、落ち葉が溜まりやすく湿度が保たれやすい岩場の隙間や倒木などの環境が必要である。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域周辺樹林の大木下等で確認された。



#### 46. ヘソカドケマイマイ

薩摩半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の木々や草に付着している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、確認個体は少ないものの、飛行場周辺樹林全域で確認された。

#### 47. ツバキカドマイマイ

伊豆諸島、薩摩半島・大隅半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で樹幹や葉上に生息しており、湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、飛行場周辺樹林、土砂採取区域及びその周辺樹林の樹上で多くの個体が確認された。

#### 48. ヤクシママイマイ

屋久島、種子島に分布する。本種は落ち葉の下や樹幹に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。

調査では、飛行場周辺、土砂採取区域及びその周辺樹林の樹上や落葉上で確認された。

#### 49. チャイロマイマイ

佐多岬、大隅諸島、トカラ列島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。

調査では、飛行場周辺の樹林において多くの個体が確認された。

#### 50. オカヤドカリ類

文化財保護法では、屋久島に分布する種でムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、オカヤドカリが天然記念物の指定を受けている。現地調査で確認された個体は形態などからこれらの中の1種であると考えられる。夜行性で、昼間は林や海岸近くの草むら、石の下に潜んでいて、夜になると砂浜や水辺に出てきて餌をあさる。雑食性で、野菜類や魚介類を好んで食べる。

調査では、飛行場周辺で多くの個体が確認された。確認箇所は、いずれも海岸林が連続する場所であった。

#### 51. ニホンウナギ

成魚の全長は1m程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で4~15年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。

調査では、河川で生息が確認された。

## 52. オオウナギ

成魚の全長は1m程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で4～15年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。

調査では、河川で生息が確認された。

## 53. アカボウズハゼ

成魚の全長は50mm程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、奄美大島から知られている。樹林に囲まれた水の清澄な河川の渓流域に生息する。流れの緩やかな淵にて、転石上に定位している。

調査では、河川で確認された。いずれも全長30mm程であり、未成魚と考えられる。

## 54. ルリボウズハゼ

成魚の全長は120mm程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島に分布している。河川生活期は、水の清澄な河川の中流域～上流域に生息する。海洋生活期については不明。

調査では、河川で確認された。

## 55. モクズガニ

北海道、本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島に分布する。本種は降河型の通し回遊を行うため、河川の上流域から汽水域及び内湾域を中心に潮間帯、浅海域に広く生息する。

調査では、河川や湿地で確認された。

## 56. ケフサヒライソモドキ

神奈川県～南西諸島、伊豆諸島南部に分布する。内湾、河口域中部の石の下や隙間に生息する。タイワンヒライソモドキが同じ場所で見られることがある。

調査では、河川において確認された。

## 57. タイワンヒライソモドキ

千葉県（太平洋側）・鳥取県（日本海側）～琉球列島に分布し、内陸の干潟、河口域上部で淡水の影響が強い砂泥底にある石の下に生息する。

調査では、河川において確認された。

#### 58. ベンケイガニ

千葉県（太平洋側）・秋田県（日本海側）～琉球列島に分布する。河川の下流～中流の川岸や海岸近くの草地、湿地、水田の周辺等に巣穴を掘って生息する。産卵期は7～9月で雌は約1か月抱卵した後、川岸や海岸へ移動し、幼生を放つ。

調査では、河川や湿地において確認された。

#### 59. コツノテナガエビ

体長 90～120 mm程度の大型種。鹿児島県内では大隅半島南西部、屋久島、口永良部島、中之島から知られている。河口から上流域まで生息し、比較的流れの速く、裸岩や転石が卓越する淵に生息する。

調査では、河川や湿地において確認された。

#### 60. ミナミテナガエビ

神奈川県、静岡県、岡山県、島根県、高知県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県（種子島から沖永良部島を含む）、沖縄県（沖縄本島から八重山諸島まで）、小笠原諸島に分布する。本種は琉球列島では河川の河口部から上流まで生息するが、九州以北では河口～中流域に分布する。河川の深みのある緩流域等に生息する。

調査では、河川において確認された。

#### 61. ツブテナガエビ

体長 60～80 mm程度のやや大型な種。鹿児島県内では口永良部島と屋久島から知られている。奄美大島からの報告もある。河口から中流域に生息し、比較的流れの速い流心部に棲む。河口から直ぐ渓流域になるような急勾配の小河川を好む。

調査では、河川において確認された。

#### 62. ヤマトヌマエビ

体長 30～40 mm程度の中型種。鹿児島県内では薩摩・大隅半島、甑島列島、宇治群島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖永良部島に分布している。下流～上流域まで広く生息し、ある程度深さがあり、流れの速い淵の壁などに集まる傾向がある。

調査では、河川や湿地において確認された。

#### 63. サキシマヌマエビ

体長 20～30 mm程度の小型種。鹿児島県内では中之島、喜界島、沖永良部島、与論島から知られている。山間を流れる河川の石の下や泉、崖からしみ出た水が集まる側溝などに見られ、洞窟内にも生息する。

調査では、湿地で確認された。

#### 64. イシマキガイ

本州房総以南及び新潟県以南、四国、九州（対馬、壱岐、五島、屋久島、種子島を含む）、奄美大島、沖縄本島、宮古島、八重山諸島、小笠原諸島に分布する。河川汽水域の上流部から淡水域にかけて広く分布する。

調査では、河川で多数が確認された。

#### 65. フネアマガイ

奄美大島以南に分布する。静岡県沼津市、和歌山県南部町、和歌山県白浜町、鹿児島県指宿市、屋久島南部等にも記録がある。本種は孵化後に降海して、幼生は河川部の汽水域の岩盤上に定着する。その後河川を遡上して成貝は通常淡水域に生息するという両側回遊型の生活史を持つ。

調査では、河川で多数確認された。

#### 66. キボシホシゲンゴロウ

北海道、本州、四国、九州、対馬、五島福江島、屋久島に分布する。低山地～山地の清流に生息し、岸辺の岩陰等の流れの緩やかな水域やよどみの石の下等に見られる。

調査では、河川で確認された。

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

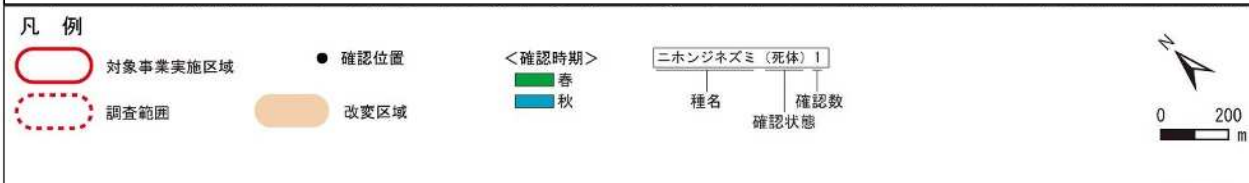


図 6.8-5 哺乳類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（1, 2）



図 6.8-6 (1) 鳥類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（3, 4, 5, 6, 8）

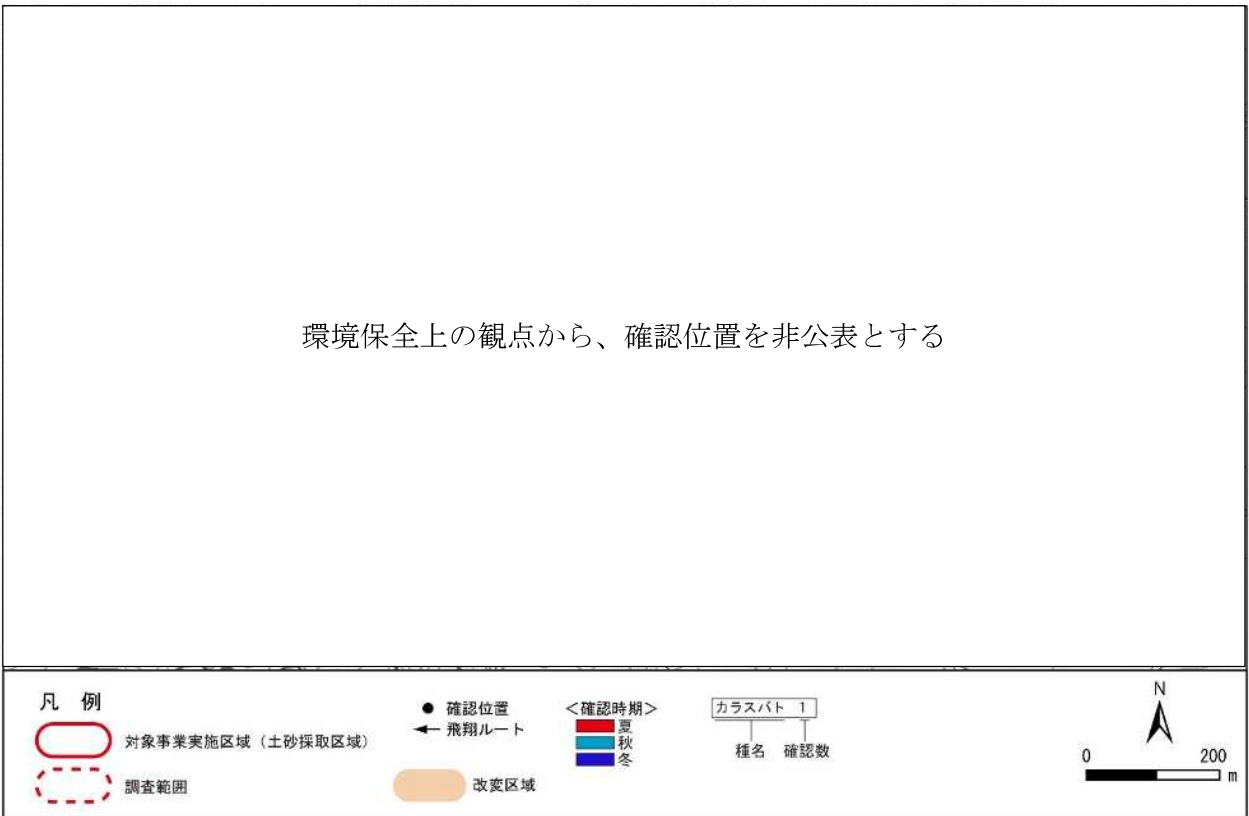


図 6.8-6 (2) 鳥類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（3, 7）



図 6.8-7 (1) 爬虫類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺） (9)

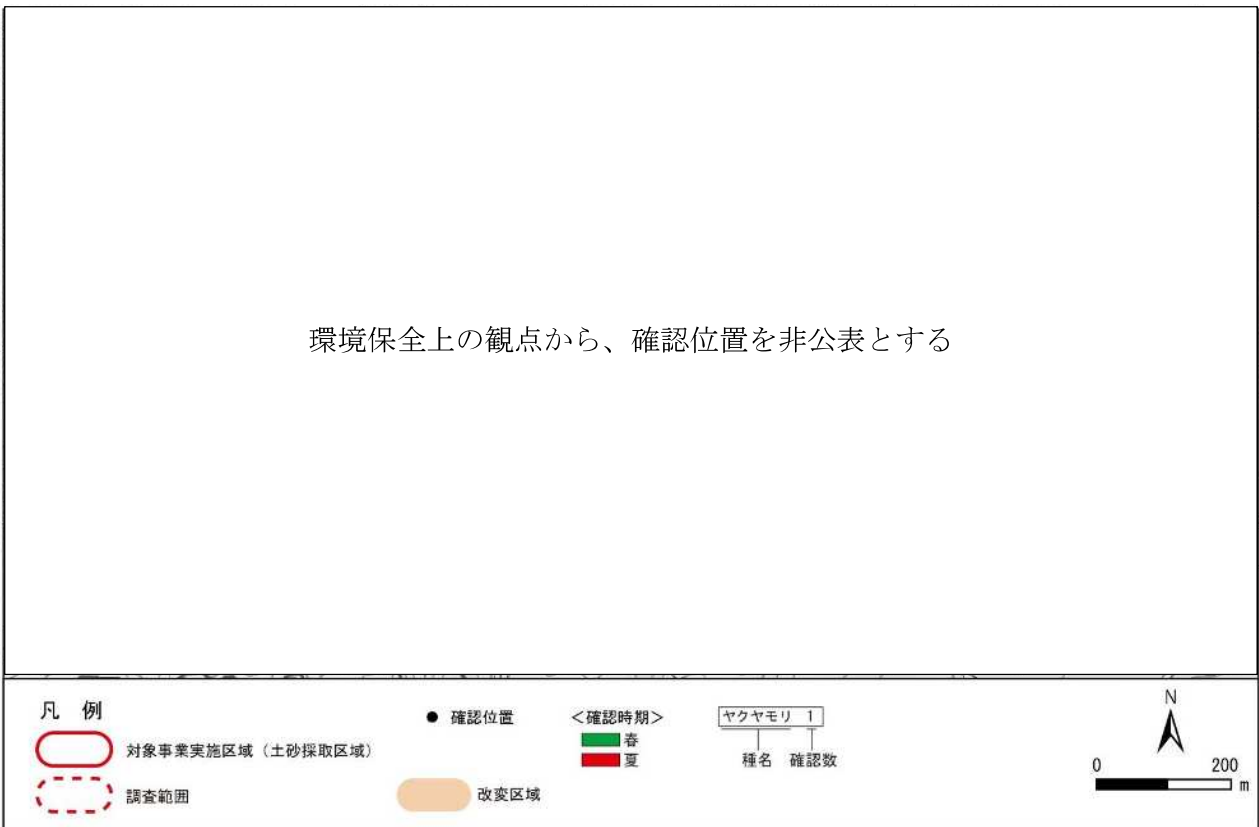


図 6.8-7 (2) 爬虫類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (9)



図 6.8-8 (1) 昆虫類の保護上重要な種確認位置図（飛行場周辺）（10, 11, 12）



図 6.8-8 (2) 昆虫類の保護上重要な種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（13）



環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

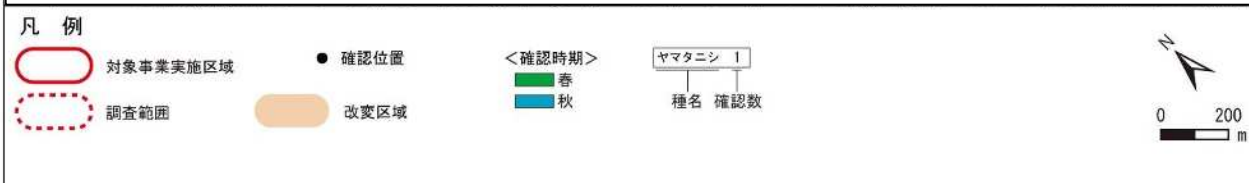


図 6.8-9 陸産貝類（ヤマタニシ）の確認位置図（飛行場周辺）（14）



図 6.8-10 (1) 陸産貝類（ミジンヤマタニシ）の確認位置図（飛行場周辺）（15）

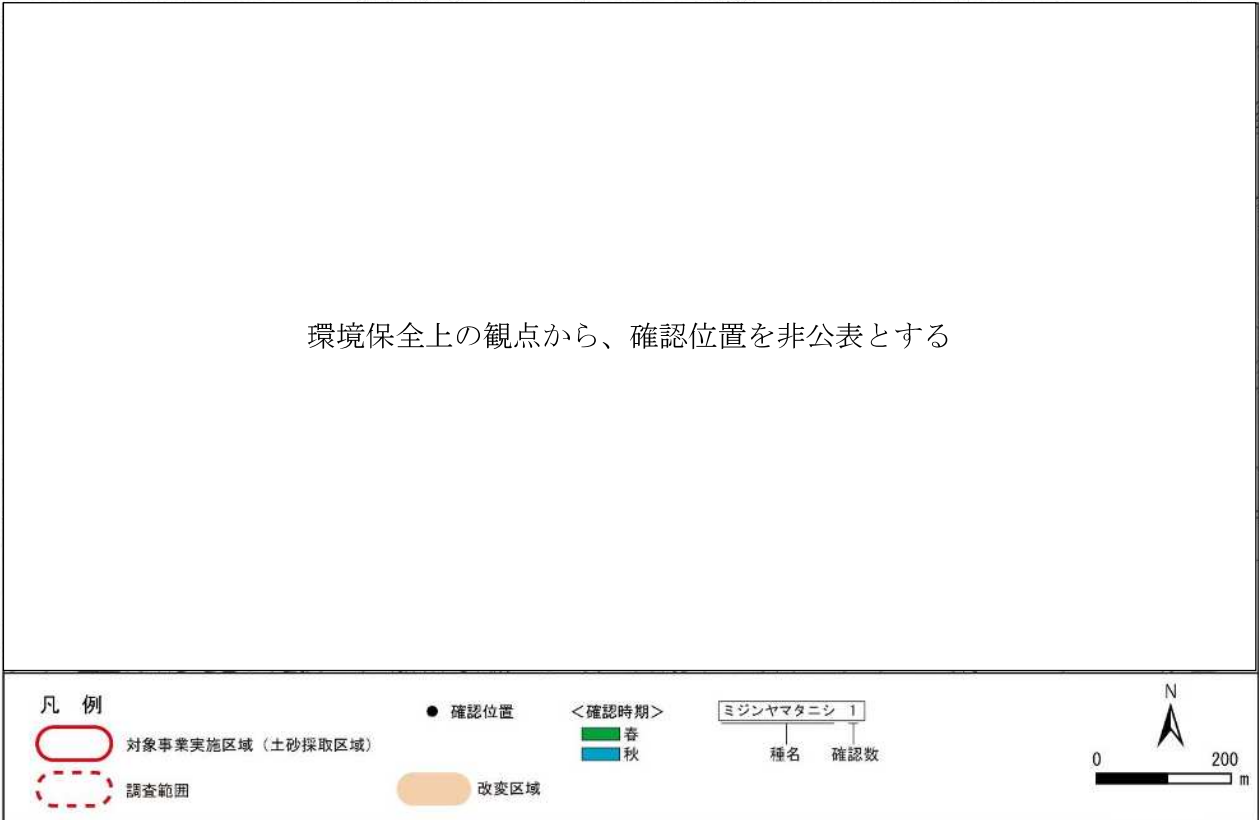


図 6.8-10 (2) 陸産貝類（ミジンヤマタニシ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（15）

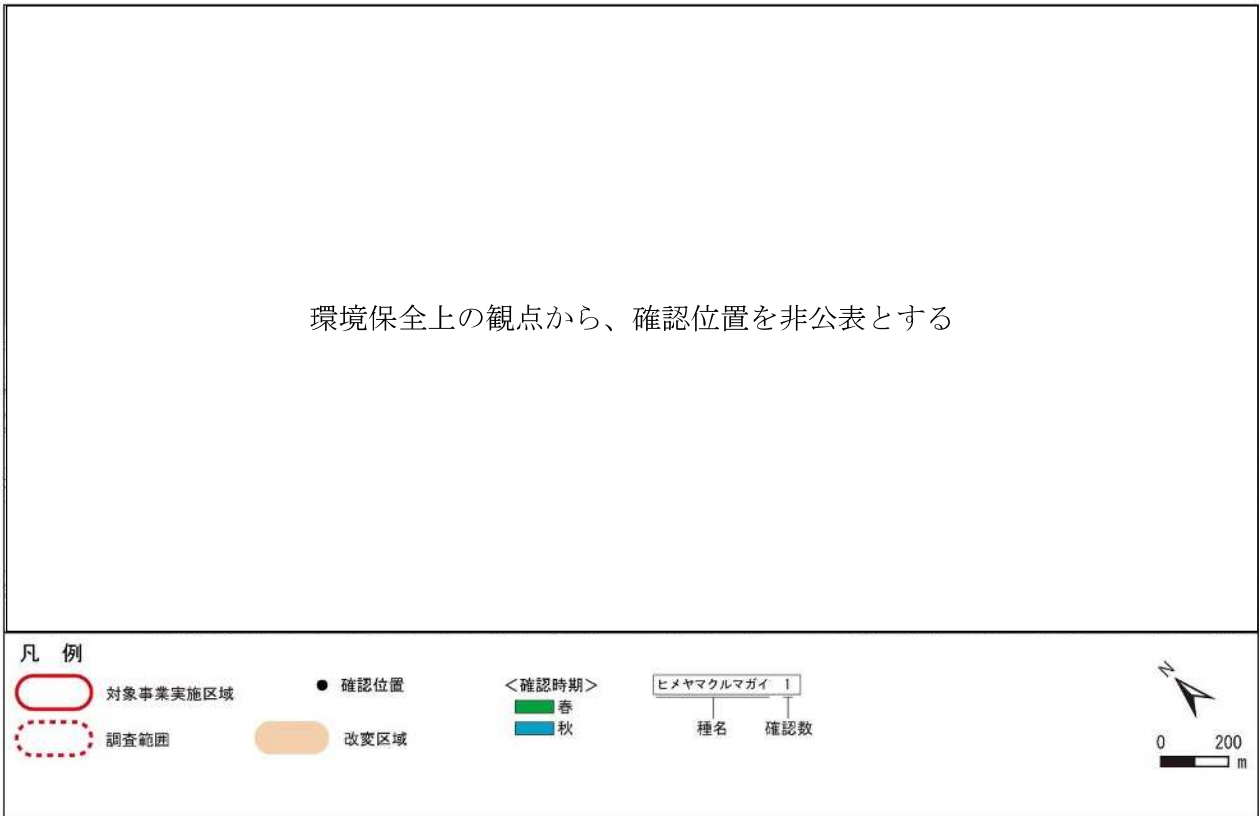


図 6.8-11 (1) 陸産貝類（ヒメヤマクルマガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（16）

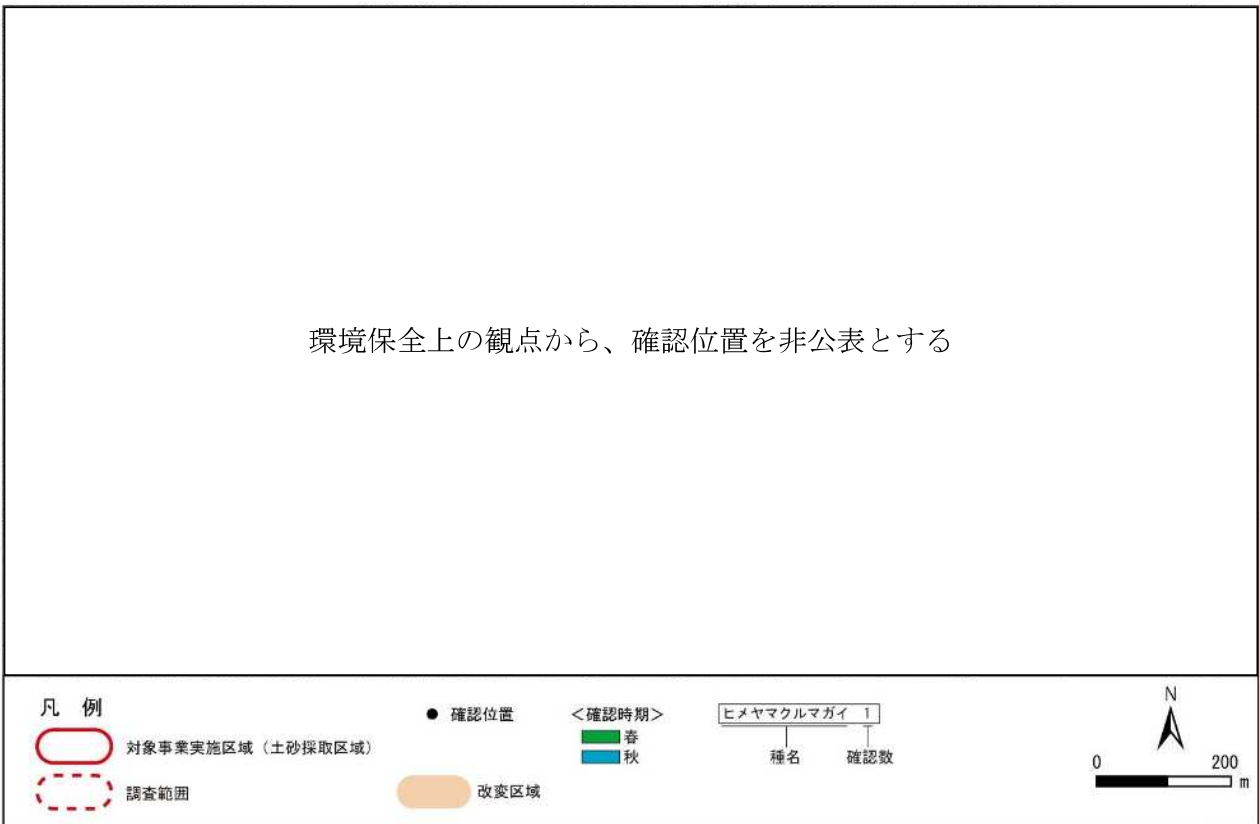


図 6.8-11 (2) 陸産貝類（ヒメヤマクルマガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（16）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

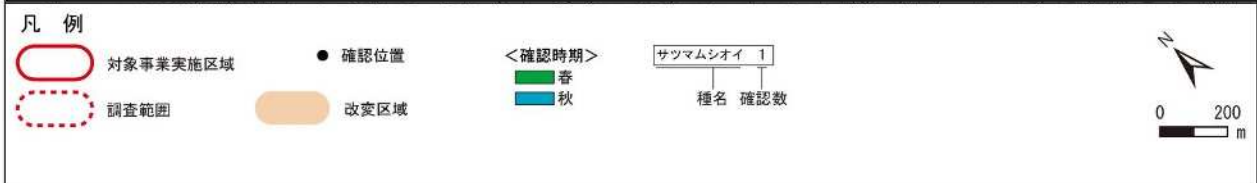


図 6.8-12 陸産貝類（サツمامシオイ）の確認位置図（飛行場周辺）（17）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-13 陸産貝類（タネガシマムシオイ）の確認位置図  
（土砂採取区域及びその周辺）（18）



図 6.8-14 (1) 陸産貝類（アズキガイ）の確認位置図（飛行場周辺）（19）

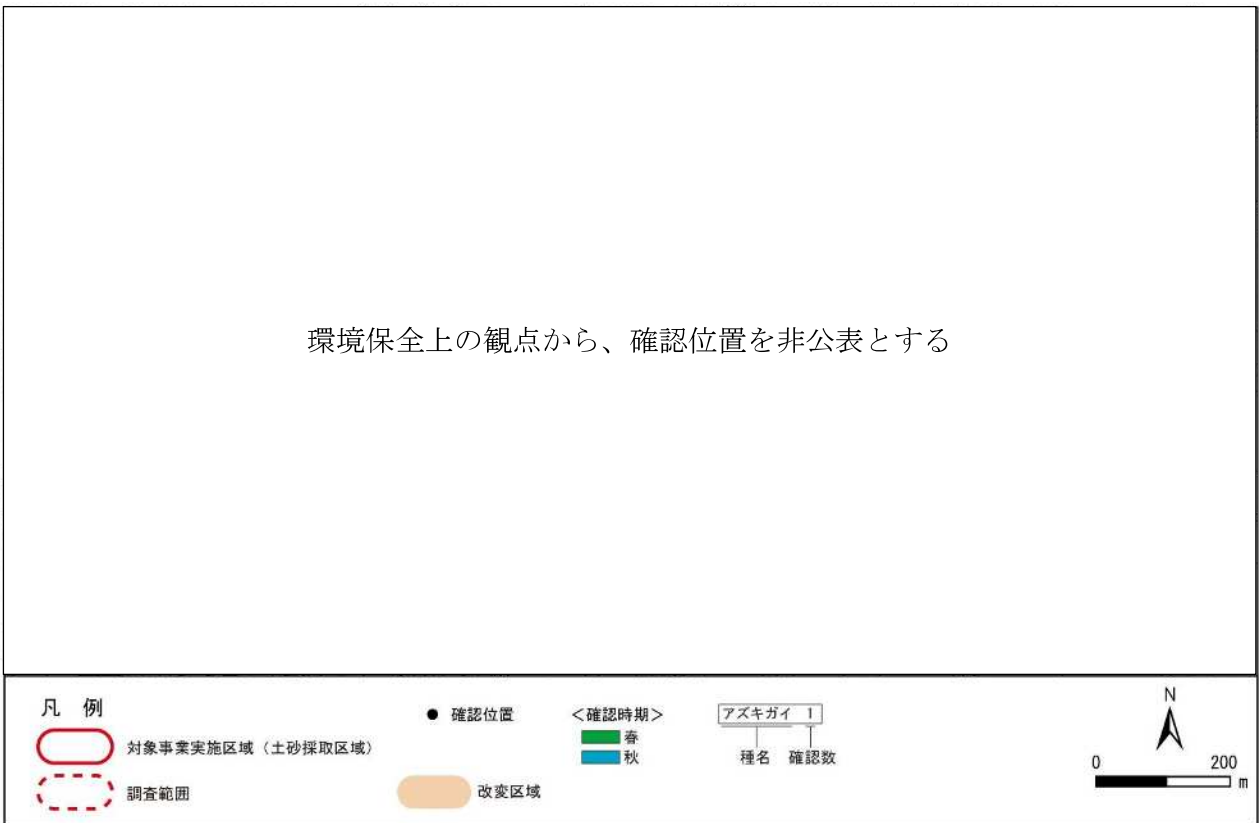


図 6.8-14 (2) 陸産貝類（アズキガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（19）



図 6.8-15 (1) 陸産貝類（フナトウアズキガイ）の確認位置図（飛行場周辺） (20)



図 6.8-15 (2) 陸産貝類（フナトウアズキガイ）の種確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (20)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-16 (1) 陸産貝類 (タネガシマゴマガイ) の確認位置図 (飛行場周辺) (21)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.8-16 (2) 陸産貝類 (タネガシマゴマガイ) の種確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (21)